

Title	食品流通業におけるマネジメント・コントロール・システム-A社の事例研究を中心として-
Sub Title	
Author	細川直哉(Hosokawa, Naoya) 伏見多美雄
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1980
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001980-0104">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001980-0104</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 細川直哉

主査 伏見多美雄 教授

副査 高橋吉之助 教授

所属ゼミナール 伏見多美雄 研

柴田典男 助教授

柳原一夫 助教授

## 「食品流通業におけるマネジメント・コントロール・システム」

### — A社の事例研究を中心として —

本研究は、地域別事業部制を採る食品流通企業・A社のマネジメント・システムを有効に機能させるための改善案を提示することを狙いとしたものである。

現在、A社の抱えている問題点は、(1) 地域事業部長である支店長に対して、自社製品を積極的に販売するようなインセンティブが与えられない、(2) 売上高志向が強く、全社の利益に貢献するような方向へモチベートできない、(3) 支店間の業績比較が困難なために、設備・人などの経営資源の有効配分がむずかしい、(4) 支店長にとって、行動の指針となるような指標が提供されないことから、タイミングのよい是正措置がとりにくい、の4点が主なものである。これらの原因となるものは、すべて相互に複雑に絡み合っており、断片的改善は望めず、十分に体系だった整備を必要とする。そのためマネジメント・コントロール・システムとりわけ、業績評価システム及びそれに伴うインセンティブ・システムの設計に集点をあてるものとする。

改善の手順としては、まず、各組織単位の権限の見直しをし、権限に見合った適正な責任をわりあてることにより、責任中心点の位置づけを明確にする。次に新しい損益計算書の提案を中心に、業績評価システムの改善案を提示する。そして個別問題として、現行の業績評価システムの主要な阻害要因である (1) 資本コストの配賦に関する問題 (2) 振替価格に関する問題をそれぞれ分析し、改善案の提示をする。